

優良賞

## 海の悲鳴に耳をかたむけて

桶川中学校一年 塚本 丞

近年、テレビや新聞で「海洋汚染」という言葉をよく耳にする。海洋汚染とは、人間の活動によって排出される物質の影響で、海域や海水が汚染されることをいう。

その海洋汚染の原因は、

「プラスチックによるもの」

「タンカー等の燃料の油が海に流出したことによるもの」

などがあげられる。

このような海洋汚染が原因で、今地球では、どのような問題が起こっているのだろうか。また、世界はその問題に対して、どのような対応をしているのだろうか。

始めに、「プラスチック」が原因で起きている問題についてである。

「プラスチック」が原因で、海にすんでいる生き物が苦しんでいる。海にあるプラスチックは、海の生き物が食べているクラゲや小魚に見え、エサと勘違いして食べてしまう。そうするとどうなるか。プラスチックを食べなくても、消化されずにそのまま排泄されるので健康的な問題はない。しかし、運悪くのだにつまってしまうと、呼吸が苦しくなり、いずれ死んでしまう。

このような問題に対し、世界はどのように動いているのだろうか。ケニアでは、プラスチック製レジ袋の輸入、製造、使用、販売を禁止した。

日本でも、レジ袋を有料化したのが、禁止とすることではない。禁止ではないということには、使おうと思えば使える。

次に、「タンカー等の燃料」が原因で起きている問題についてだ。

「タンカー等の燃料」が原因で、海の生き物に影響を与えている。海の生き物は、油が体に付着すると、機能不全を起こし、抵抗力の弱い卵や稚魚は死んでしまう。

また、油は、海のプランクトンが大発生して赤潮を引き起こす原因となる。だが、ここで、

「プランクトンをエサにする生き物はいい。」と思う人もいるだろう。しかし実際は、プランクトンが大量の酸素を消費するため、酸欠を起こし、大量の魚が死んでしまう。

この問題に対して、世界はどのような対策をとっているのだろうか。

インターネットで調べたが、「油が流出したら回収」など、流出した後の対策が多くあり、未然に防ぐ具体的な対策は検索にヒットしなかった。今の時代、インターネットはかなり発達しているため、検索にヒットしなかった可能性は低いことから、この問題については世界的に見て、関心が低いのかなと思う。これらのことを通して、僕が大人、世界に訴えたいことは、いたってシンプルだ。

「もっと真剣になって考えてほしい。」  
プラスチックが原因なら、プラスチックを使わなければいい。

燃料である油が原因なら、油に代わる新た

な、海に負担がかからない燃料を開発すればいい。

これらは、僕が考えた対策だ。きっと、真剣に考えれば、この世界の誰かが、もっと素晴らしい考えを思いついて実現してくれるだろう。しかしそれは、僕らの生活が不便になることかもしれない。不便になって文句を言う人もいるかもしれない。そんなことを言っている人を、「海」は、「理不尽」と言うだろう。海は文句も言わずたえてきた。今度は「人」が、がまんする時だ。そう大人に、世界に、僕は訴えたい。